

令和6年度教育者表彰（文部科学大臣表彰）被表彰者の功績概要

はやかわ いわお  
早川 巖 （60歳） 三重県立桑名高等学校長

- ・公立高等学校教諭として理科教育の推進に尽力した。
- ・三重県教育委員会事務局主事、充指導主事、主幹、班長、課長を務め、本県の教育活動の充実のみならず、本県教育行政の発展に尽力した。
- ・公立高等学校長として、伊勢まなび高等学校では、午前部、午後部、夜間部のそれぞれに通学する生徒の多様な学習ニーズに応えるため、全校で授業改善に取り組む体制を構築した。  
いなべ総合学園高等学校では、多様な進路を選択する生徒の進路希望を実現するため、キャリア教育を充実させ、地域と連携した学習を通じて社会貢献できる人材育成に取り組んだ。  
桑名高等学校では、文部科学省指定スーパーサイエンスハイスクール事業と連携し、ICTを積極的に活用しながら、課題研究活動や校内外での研修活動などの取組を通じ、理系キャリア教育の充実と、様々な分野において社会貢献できる人材の育成を図った。
- ・三重県立学校長会長、副会長、会計、監事として同会の運営に尽力した。

令和6年度教育者表彰（文部科学大臣表彰）被表彰者の功績概要

はやし やすこ  
林 康子 （60歳） 伊賀市立府中小学校長

- ・公立小学校教諭として採用され、個々の児童の特性やニーズを理解し、児童の興味を引き出すとともに、児童一人ひとりを大切にした教育を推進した。
- ・名張市教育委員会事務局学校教育室指導主事、同副主幹として、市内の小中学校の課題に対して、的確な指導を行った。
- ・三重県教育委員会事務局教育改革室主査、同主幹として、学校の組織力強化及び教育活動の質の組織的向上に大きく貢献した。その後、研修企画・支援課主幹兼研修主事に転任し、教職員研修事業の企画調整に力を発揮し、三重県の教職員の職務遂行能力の向上に貢献した。
- ・名張市教育委員会事務局教育総務室事務職員、同参事として、市立小中学校の規模・配置の適正化に尽力した。
- ・公立小学校長として、児童一人ひとりの自己肯定感を高め、個性や能力を伸ばし、確かな学力を身につけ、将来の夢の実現に向けて社会的自立を図っているよう、情熱と使命感をもって学校運営に取り組んでいる。
- ・三重県小中学校長会長に就任し、これまでの豊富な経験と幅広い見識を生かして、三重県内の小中学校における学力向上、働き方改革など、様々な課題の解決に取り組んでいる。

令和6年度教育者表彰（文部科学大臣表彰）被表彰者の功績概要

ふるいち たかし  
古市 卓司 （60歳） 津市立白山中学校長

- ・公立中学校教諭として採用され、公立中学校5校で教諭として学習指導、生徒指導等に熱心に取り組んだ。
- ・津市教育委員会事務局生涯学習課主幹として、青少年健全育成に係る取組に尽力した。また、同事務局教育研究支援課主幹となり、津市の教職員の資質・能力の向上に向けた研修計画の作成及び研修会の開催を行った。
- ・三重県教育委員会事務局研修推進課班長、同課長補佐として、公立小中学校及び高等学校の管理職を対象とした研修会を企画・運営し、管理職の資質・能力の向上に尽力した。
- ・津市立一志中学校長として、これまでの経験を活かし、若手教職員の指導及び中核的教職員の育成に努めた。また、生徒が自分の人生への展望を考える機会となるよう、地域の企業と連携した学校運営を推進し、地域から高い評価を受けた。
- ・津市立白山中学校長として、地域の方から学ぶ「出会い学習」を全学年で取り入れるなど、地域との結びつきを大切にした学校経営に努めている。
- ・三重県小中学校長会副会長、中学校部会長として、三重県小中学校長の中心的な存在となり、力強いリーダーシップを発揮し、県内の小中学校における教育課題の解決に尽力している。

令和6年度教育者表彰（文部科学大臣表彰）被表彰者の功績概要

の だ よしひと  
野田 佳均 （63歳） 三重中学校長

- ・三重高等学校及び三重中学校の教諭として英語科教育の推進に尽力するとともに、高い専門性を活かして生徒の進学希望の実現に成果をあげた。
- ・平成24年に三重高等学校の教頭、平成25年に同副校長、平成27年から三重中学校の校長に就任し、地域から信頼され、社会に貢献する生徒を育てるための学校経営に尽力した。
- ・三重県私学協会の広報担当理事として、三重県全体の私立学校教育の振興発展に寄与している。
- ・現在に至る12年間に渡り、六年制通信を定期的に発行し、生徒や保護者に対して、学校また副校長・校長としての思いを伝えてきている。
- ・近隣の社会福祉法人である向野園と様々なコラボを企画し、知的障がいのある方々と生徒との交流を推進した。
- ・英語教師として、オーストラリアのACGS校との姉妹校提携に携わり、現在の国際交流の礎となっている。